

みどりの杜俳句会



春隣窓辺に投句欄読めり

梅沢喜久江

春浅き空の青さよ杉木立

西 ツル

大雪の被害の友よ心配す

梅澤 時江

苞の中水仙つぼみ膨らめり

鈴木 啓子

日溜りの蠟梅香り解れ初そむ

田村 好子

鬼の背にお手玉投げて節分祭

吉田 愛子

寒明けて生徒ら自転車立ち漕ぎす

小宮 勉

流鏑馬や馬場の下萌え蹄跡

初雁 功子

初午や千木の空より青さ増す

山田 美子



人権シリーズ

【年を重ねても大切にしたい事】

435

1月9日の新聞のコラムにこのような言葉がありました。「世の中は澄むと濁るとでは大違い。意志が濁れば意地になり、エゴとエゴも濁点一つで世界は変わる。自分さえ良ければというエゴが減れば、地球の暮らしもエゴになる。」この言葉を読み、私たち一人ひとりの心のあり方が、社会の姿を形づくっているのではと感じ、また、人権を大切にすると社会も澄んだ意志から生まれるのではないかと思いました。

私は仕事を離れてから活字に触れる機会が減り、世の中の情勢や世界で起きている出来事を知ることが少なくなりました。情報があふれる時代であっても、何を信じ、どう考えるべきか迷うこともあります。そんな中で出会ったこのコラムの言葉は、自分自身の人権意識を見つめ直すきっかけとなりました。そして、先日亡くなった久米宏さんが権力や多数派に流されずに問い続けてこられた姿や、斉藤とも子さんの講演で東日本大震災から年月が経った今も、放射能の影響などで苦しんでいる人々がいる現実を知り、当事者の声に耳を傾ける大切さを教えられました。また近年、SNSをめぐる問題も多く、心ない言葉が人を深く傷つけていますが、自分さえ良ければというエゴが、人権を脅かしている現実には心が痛みます。人権は、特別な誰かのものではなく、私たち一人ひとりの暮らしの中にあるものではないでしょうか。すべての人が自分さえ良ければというエゴを少し抑え、人の声に耳を傾けることを積み重ねていけば、人権が尊重される優しい社会になっていくのではないかと思います。私も年齢を理由に目を閉じるのではなく、これからも人権について考え続ける一人でありたいと思っています。

東秩父村教育委員 奈良 幸子

アートの世界

ハイキングに興味を持ち、40歳から65歳まで屋久島から羅臼岳までの全国各地の名峰や花、景色のよい山々を巡りました。

この作品は平成14年7月に表銀座コースの燕岳から常念岳、蝶々に至るコースで、槍ヶ岳が望める場所です。ルートの中で見た枯れ古木を槍ヶ岳の前に置き、現実とは異なりますが、私が思い描く創作作品となっています。



「感動のひとつ」  
作者 版画を楽しむ会  
倉林 均さん (皆谷)